



2023.2.15

Salone del Mobile.Milano 2023 第 61 回ミラノサローネ国際家具見本市 見本市の新しいタクソミー*を目指す

家具とデザインの業界で世界の基準点となる Salone del Mobile.Milano/ミラノサローネ国際家具見本市(以下、ミラノサローネ)がようやく通常通り 4 月に開催します。2023 年は、エウロルーチェ(サローネ国際照明見本市)の全く新しいレイアウトと複合的な文化コンテンツと共に、ワンフロアに全てが集結します。この衝撃の中、見本市は新しいデザインへの道を切り開きます。

*タクソミー = 環境面で持続可能な経済活動に該当するかを明確にする EU 独自の分類基準

4 月 18 日から 23 日まで、第 61 回ミラノサローネがロー・フィエラミラノで開催され、「美しく」、「素晴らしい」作品群が国際的に重要なステージに帰ってきます。この比類ない見本市は、高いクオリティの企業や企画はもちろん、**見本市の変革と進化のプロセスを加速**させます。常に並外れた好奇心、比較することへの意欲と開放性、改善への大きな欲求と能力を示し、**革命**を起こしてきました。この困難な時代の中で見本市の将来についての考察、研究、疑問が議題となり、デザイン界全体にとって価値を生み出し続けることを目的に、見本市の形式を具体的に見直すことになったのです。

このポジティブで建設的なエネルギーから、**3 つの重要な新機軸**が生まれました。

まず、上の階のホール(8-12、16-20)の全出展社を地上階へ移動し、よりシンプルに改善し向上させた**ワンレベルの見本市**に生まれ変わります。また、**エウロルーチェの新しいレイアウト**は、アクセスしやすく接続の良いリング状の導線によって、人とイベントの波を中心へと導きます。そして、建築からアートまで、展示、講演、ワークショップ、サイトスペシフィックインスタレーションなど、学際的・体験的なコンテンツを通じて、**隔年開催の照明見本市の空間で文化的要素**が表現されます。

ミラノサローネ マリア・ポッロ代表のコメント:

「ミラノサローネの特徴のひとつは、現代社会の喫緊の課題に対応するために進化していくことです。私たちは 2020 年に、パンデミックが最も厳しかった時期を経た直後の初めて世界的なイベントとなった『スーパーサローネ』を考案して実現し、昨年 6 月にはサステナビリティに取り組んで従来の形式に戻り、2023 年も引き続きこれを実現します。3 年間、何事もなかったかのように、従来の 4 月開催に復活した訳ではありません。サローネの新たな役割と



は何か、という根本的な問いかけから始まり、近年浮上した提案やビジョンを形にしていきました。その進化をどこからどのように始めるか。私たちは、このイベントを作る人、利用する人、出展者、来場者のニーズを 2,300 以上のインタビューとテーマ別ワーキンググループで収集した結果、導線を考慮した『ワンフロア展示』案が浮上、ホール内のデザインを『都市型』としました。近年大きく変化している照明の世界に特化したビエンナーレ『エウロルーチェ』を皮切りに、各社のスペースを光、建築、アート、サイエンスの関係性という学際的な文化コンテンツに統合し、ルートを再構築しました。この改革は、サローネ全体に影響を与えるものであり、見本市のモデルチェンジに貢献することを目的としています」

2023 年のイベントには、35 歳以下の若い才能を持つデザイナー 550 名を含む 1,962 の出展を迎えます(デザイン学校 27 校を含む)。サローネ・デル・モービレ(サローネ国際家具見本市)、サローネ国際インテリア小物見本市、ワークプレイス 3.0、S.プロジェクト、サローネサテリテ、エウロルーチェ(サローネ国際照明見本市)で構成されるミラノサローネは、今年からワンフロア開催となり、美的で文化的な導線、体験的スペース、休憩・リラックスエリアなどを配備し、コール・トゥ・アクション(行動喚起)、カンファレンスの参加、ワークショップ、テーマ展示、ブックショップ、サイトスペシフィック・インスタレーションの体験、などを提案して、ビジネスも含め来場者の記憶に残る刺激的な長期にわたる繋がりを生み出す唯一の場を提供します。

【Eruoluce/エウロルーチェ(サローネ国際照明見本市)】

今年で 31 回目を迎えるビエンナーレ(隔年開催)のエウロルーチェは、ホール 9-11、13-15 で開催、Lombardini22/ロンバルディーニ 22 スタジオの設計により、展示レイアウトが一新されます。4 つのホール間のつながりを改善し、導線を単純化し、イタリアの伝統ある都市の通りの名前からインスピレーションを得て、また、同時に出演社の視界を広げ、誰もが十分なスペースを確保できるような展示になる予定です。“The city of Lights/光の街”がビエンナーレのコンセプトであり、テーマとなります。Beppe Finessi/ベッペ・フィネッシがキュレーションする学際的な文化コンテンツは、想像力と具体的なビジョンを特徴とし、エウロルーチェを感情と知識の幸福な実験室にしてくれることでしょう。Formafantasma/フォルマファンタズマの緻密で知的な介入により、ビエンナーレの中心には、「AURORE (アウローレ)」と名付けられた没入的で内省的な体験のための大きな広場とアリーナが設置され、講演会など様々なイベントが開催されます。

フィネッシがキュレーションした 12 のコンステレーションの展覧会を見本市会場内で併催、彼が全行程に渡って設計しています。

以下、主な展示内容です:

Massimo Curzi/マッシモ・クルツィ

現代写真の最も重要な写真家の一人であるエレヌ・ビネの個展をマッシモ・クルツィがキュレーションし、彼女の作品がいかにかに自然光と建築の関係を探求しているかを、オリジナルな写真セレクションで紹介しします。

Martina Sanzarello/マルティーナ・サンザレロ

クラシックな白熱電球に敬意を表し、アートとデザインの間にある現代の物語を、一連の電球として構築し、その本来の実用的な使い方から、幻惑的なオブジェクトや小さな実験的インスタレーションに変身させる展覧会を企画・設置しします。

Matteo Pirola/マッテオ・ピローラ

「人工の星」をキュレーション。今日の「デザイナー天文学者」が調査している発光装置、発光現象を提示するオブジェクト、軌道上の球体、反射面、まばゆい日食、“From outer Spaceスタジオ”が設置したカラーオーロラなどを一挙に紹介しします。

Michele Calzavara/ミケーレ・カルザヴァーラ

人工光を主役とするインテリア建築の映像展のキュレーターを務めます。光源を認識するための印や光点で構成されています。Berfu Bengisu Goren/ベルフ・ベンギス・ゴレンが実現したこの展示レイアウトは、実際の展示スペースと、出展企業のワークショップ、会議、技術やテクノロジーのデモンストレーションのためのスペースという2つの機能が同時に存在することを想定し、ハイブリッドな性質を持つこととなります。

Maurizio Nannucci/ マウリツィオ・ナンヌッチ

現代美術における人工光の最も強力な解釈者の一人。サイトスペシフィックな大型インスタレーションを制作しします。長いネオンサイン “You can image the opposite” は、創造的、好奇心、高潔な行為に対して、理想的には「反対のことを想像してください」と呼びかけているのです。また、デザイン、アート、イラストレーションを扱うライブラリーには、「光」をテーマにした文学書が並び、まさに「文化の駐屯地」ともいうべき重要な場所となることでしょう。このスペースは、Corraini Editori/コライニ・エディトーリがキュレーションし、デザインはフォルマファンタズマ・スタジオが担当し、親密で温かく包み込むような場所をイメージしています。

また、エウロルーチェのホール内には、ビエンナーレのコンセプトと調和した**ピエロ・リッソーニ**のデザインによる**ビストロ**と**高級レストラン**があります。

【第 24 回 SaloneSatellite/サローネサテリテ開催 (エウロルーチェ内)】

550 以上のデザイナーやデザイン学校が参加するサローネサテリテは今年、エウロルーチェの 13-15 ホール内で展示、優れたデザインの未来を表現します。今年のテーマは「デザインスクール - 大学/BUILDING THE (IM)POSSIBLE.プロセス、プログレス、プラクティス」。サローネサテリテは、デザイン学校と大学にスポットライトを当てることで、新しいデザイナーの育成とデザインの発展に、これからも引き続き計り知れない貢献をしていくことを強調したいのです。そのため、展示スペースのレイアウトも一新し、参加する 27 校の学校と大学が個々のデザイナーを包み込むような外周リングに配置されています。また、レイアウトは自然光とそれが表現するものからインスピレーションを得ています。今回で 12 回目を迎えるサローネサテリテ・アワードでは、太陽と月が展示スペースに登場し、展示会全体の美学を際立たせます。2 つの広場には大型望遠鏡を設置し、デザインの現在と未来を映し出す星空を鑑賞できる特別なインスタレーションを行います。光と影の戯れ、夜明けから夕暮れまでの光の色の变化から、インスタレーション全体の舞台装置とグラフィックが形作られます。

また、照明のデザイナーやメーカーに敬意を表した特別展示「Sate-light:1998-2022 SaloneSatellite young designers」を開催します。エウロルーチェとサローネサテリテ会場の境界にシンボリックに設置されたこの展示では、過去に開催されたサローネサテリテ参加デザイナーたちがデザインし、過去の参加をきっかけに多くの企業とのコラボレーションが実現し生産された照明の大部分が紹介されます。更には、サローネサテリテに待望の大物ゲスト、ガエタノ・ペッシェを招き、彼の長いキャリアとデザイン界への学際的貢献の主要なステップを語ってもらうとともに、彼の話聞く若い才能にインスピレーション、エネルギー、情熱を伝えてもらいます。

【Annalisa Rosso/アンナリーザ・ロッソのキュレーションによる新しいトークプログラム】

照明、テクノロジー、サステナビリティに特別な焦点を当て、エウロルーチェのアリーナ「AURORE/アウローレ」(ホール 13)で行われ、現代のデザインシーンにおける最も輝かしい声によるトークやディベートで見本市をより充実したものにします。エコロジーの移行や近未来におけるテクノロジーの役割など、共通のアジェンダにある差し迫った問題に関して、建設的な考えを反映し、共有します。坂茂、田村奈穂、Snøhetta/スノヘッタ創業メンバーの Kjetil Trædal Thorsen/シェティル・トールダル・トールセンやプロダクトデザインディレクター Marius Myking/マリウス・マイキング、MAD の Andrea D'Antrassi/アンドレア・ダントラッシが、照明のイノベーションが明日の暮らしをどう変えるのか、多くの国際ジャーナリストから質問を受けるでしょう。プロジェクト、デザイン、建築が、いかにして現在を理解し、未来を想像し、新しい道を開き、解決策を見出し、直感と想像力を活性化させながら「可能性」をふるいにかけることができるかを、討論を通じて明らかにします。



【ミラノサローネ、持続可能なイベント開催に関する ISO 20121 認証取得】

2023 年に開催されるミラノサローネは、**環境、経済、社会に対する責任**を重視し、閉幕後、イベントの持続可能な管理に関する ISO 20121 の認証を取得する予定です。この検証活動は多国籍認証会社である RINA によって実施されており、イベントのプロジェクト段階である現段階で既に持続可能性証明書の取得が確約されています。

ミラノサローネ マリア・ポッロ代表のコメント:

「マリオ・クチネツァによる大型インスタレーションでサステナビリティをコンテンツの中心に捉えた 2022 年の開催後、ISO 20121 の認証プロセスを経ることにしたのは、タイムリーに進捗を測定することでサステナビリティの取り組みを続けることが不可欠になると考えるからです。グローバル・コンパクトに参加した理由と同じです。この認証プロセスは、車内だけでなく、関係する全てのステークホルダーとの建設的な対話の中で、より多くのスキルを身につけることに役立っています。私たちはグローバルなイベントであり、主催者として、この倫理的で責任ある選択を、全ての出展企業、出展者、来場者、そしてデザインのエコシステム全体で共有することがいかに重要かを知っています」

このような背景から、サローネは仮設空間の建設がもたらす影響について懸念しています。そのためエウロルーチェでは、フォルマファンタズマとロンバルディーニ 22 とともに、昨年マリオ・クチネツァの「Design with Nature」のように、この**セットアッププロジェクト**がフェア内だけでなく、他の場所でも**継続できるようなモジュール構造**を想定しています。

また、今年も共通部品に使用する**再生材料、リサイクル材料、再利用可能な材料の調達先**を探す手続きを開始、**消費される資源の再生**と発生する**廃棄物の吸収**に努め、人と地球への配慮を戦略の中心に据えたパートナー機関を選び、昨年提案した**持続可能なセットアップのためのガイドライン**を出展企業にも拡大しました。

サステナビリティを戦略的な選択にますます組み込んでいくことのコミットメントと重要性を証明するものとして、2022 年からミラノサローネは、持続可能なビジネスのための世界最大のイニシアティブである**国連グローバルコンパクト**に参加しています。

【イタリア家具工業連盟クラウディオ・フェルトリン会長による経済成長率見通し】

「ミラノサローネが持つ、**実験、革新、変化の解釈者としての能力**は、**イタリアンデザイン**を世界の卓越したデザインにした**木製家具メーカーのダイナミズム**と、**もっと、もっと、**という欲望を映し出す鏡です。第61回目は、2年に1度のエウロルーチェとともに、**大小さまざまな企業がそ**



のエネルギーを発揮し、2022年のサプライチェーンの生産高は約570億ユーロ、2021年度比+12.7% (イタリア家具工業連盟スタディセンターデータ)、家具マクロシステムで+11.1%、木材マクロシステムで+14.3%、木材貿易で+15%の総合的な伸びとなる予定です。イタリア市場は、特に建築仕上げ材(ドア、窓、フローリング)などの一部の部門がプラスに寄与し、+12.3%に達しました。一方、サプライチェーン全体の37%を占める輸出は、特に米国(フランスに次いで3番目、ドイツのすぐ後ろ)が牽引し、+13.3%と推定しています。これらの結果は、ボーナス支給の効果、パンデミック期に再認識された住まいの重要性、新興市場でも認知された当見本市出展社の製品の優れた品質、そして投資を継続する企業の決意など、いくつかの要因の結果であると考えられます。製品の耐久性、副原料の使用、省エネルギー、人材育成の分野における各社の絶え間ない研究と革新の努力が報われる成功です。一言で言えば、製品、プロセス、社会の持続可能性です。そして、連盟は、この持続可能性の概念に基づき、メンバーとともに、すでに優れている分野において、誰もが認めるリーダーとなるための道*を歩み始めました。これは、最近、国連が世界で初めてグローバルコンパクトに参加した木製家具のサプライチェーンとして認定されたことでも示されています。当連盟、起業家、そしてサローネは、ビジネスを行う上での最高の価値であり、未来に対する責任という共通の目標に向かって一丸となって歩んでいます」

*FLA-PLUS (イタリア家具工業連盟のサステナブルプロジェクト: fla-plus.it/)

このプロジェクトはマニフェスト「デカロゴ(十戒)」の原則と価値観に基づき、シンボラ財団と共同開発したソリューションのハブ

【8年目となるウェルカムプロジェクト】

ミラノサローネが常に掲げてきた「参加」「奉仕」「育成」という使命の証であり、その国際的役割を再確認するものです。これは、デザインおよび建築分野の優れた教育を代表する、NABA、Nuova Accademia delle Belle Arti、IED Istituto Europeo di Design、Scuola del Design/Politecnico di Milano、Domus Academy というミラノの主要デザインスクールとミラノ市とフィエラ・ファウンデーションとのコラボレーションから生まれる成果なのです。このコラボレーションは、対話と経験や成長の機会の共有に基づき、学校と仕事場という異なる世界の歩み寄りとしての重要な要素を担います。サローネは、市内の中心部にウェルカムステーションを設置し、100人ほどの学生が来場者に市内の移動に関する情報、見本市そのものに関する情報、そしてその週にミラノで開催される主なイベントに関する情報を提供します。若者たちは、デザイン業界のプロフェッショナルと対話し、サローネのようなイベントを開催するダイナミクスとメカニズムを学び、彼らに捧げるオープンレッスンや今年開催されるすべての複合的な文化イニシアティブに参加することができます。そして彼らにはサローネサテリテの広場の展示スペースを使用する機会も与えられます。

【ミラノ・スカラ座財団とのコラボレーション、3年連続で復活】

アイデア、文化、創造性の交流と循環に対して常にオープンであること、そしてミラノ市とのつながりの強さと価値を強調するため、更には共通の価値観を持ち、フィルハーモニー管弦楽団の才能を高めると同時にデザイン界にユニークな体験を提供することを目的に生まれたコラボレーションです。今年も、シンフォニーとバレエの両方で「照明」が主題になります。特にバレエではサローネとエウロルーチェのために特別に演出された Philip Glass/フィリップ・グラスの『Light (ライト)』が世界初のオリジナル振付作品となる予定です。第2部では、「光とアメリカの20世紀」をテーマに、フィルハーモニー管弦楽団とソプラノ歌手 Laren Michelle/ローレン・ミッシェルとの共演を、現代イタリアを代表する作曲家 Carlo Boccadoro/カルロ・ボッカドーロが指揮します。

【ミラノ市長 ジュゼッペ・サラ氏のコメント】

「ミラノサローネが新しくなり、ミラノ市の恒例に戻ってきたことを嬉しく思います。近年起こったことは、私たちの社会を変えてしまいました。常にアバンギャルドな家具やアクセサリの創造を通して、同時代性や現在と未来の挑戦を解釈してきたサローネは、今年、新しい常識を模索する代弁者となるでしょう。サステナビリティと経済的・社会的責任というテーマで、展示の流動性、考察、議論の場、出会いの場を提供することで、サローネ来場の経験をより魅力的なものにすることに貢献することができます。ミラノは、デザイナー、設計事務所、建築家、メーカー、そしてデザインを愛する来場者から観光客までを歓迎し、サローネが見本市会場の内外で共有できる革新的な解釈を提供する準備が整っています」

【2023年 コミュニケーションキャンペーン】

エミリアーノ・ボンツィに続き、ミラノサローネは、ミラノのコミュニケーションデザインスタジオ Leftloft/レフトロフトと、ミラノのミレニアルアートシーンで著名なイラストレーター Gio Pastori/ジオ・パストーリに、2023年のコミュニケーションキャンペーンのイメージを託しました。現代的でありながら、何よりも身近で普遍的な語彙をモデル化するために、彼らはルーツに立ち返ったのです。ミラノサローネの主役たちであるミラノのデザインシステムを発展させた作品たちを、原型やアイコンで表現する、新しいデザインのスペリングブックが生まれました。アルファベット1文字ずつにオブジェや家具を添えた26枚のコミュニケーションキャンペーンのポスター、その見出しが「Do you speak design?」と問いかけます。Aはアームチェア、Bは本棚、Cはチェア...と、ビジュアルと文字をスクロールしていくと、自然と答えが浮かんでくるのです。エウロルーチェに捧げられたポスターは、このビエンナーレが周囲の強烈な色調を突き破り輝きを放つ魔法のような空間として描かれています。



【マルチチャンネル・プラットフォーム】

今年の開催では、デジタルとリアルの完璧な融合がひとつの鍵となり、日々起こる体験やストーリー、コンテンツの飛躍的な充実が可能になります。出展企業の新情報やオリジナル編集コンテンツ、サービス情報、ニュースなどを毎日更新していきます。TALK イベントのライブストリーミング、ポッドキャスト、デザイナー、建築家、インサイダーとのインタビューなど、会場内で起こることを、現代的に、生き生きと、魅力的にナレーションします。Salone del Mobile.Milano アプリの更新版では、来場者や企業の体験の向上を目的とした新機能やサービス、例えば、見本市内の道順を簡単に見つけることができる wayfinding などが次々と追加されます。また、アプリケーションにより、チケットの購入や展示製品の詳細、QR コードの読み取りによるスペック確認が可能になります。来場者は企業とアポイントメントを取り、興味のある企業と直接会うことができ、ブランド側はマッチメイキングによりブース来場者とコンタクトを取りやすくなります。

【ミラノサローネと Radio DeeJay, Radio Capital, Radio m2o のコラボレーション】

61 回目を迎え、今回もデザインのサウンドトラックとして、更には 1 週間を通じてデザインのサウンドトラックとなる予定です。イベント期間中、ラジオトラックはロー・フィエラミラノのホール 22 の外、コルソイタリアから番組の一部を生放送します。音楽、エンターテインメント、情報が、ブランド、デザイナー、建築家、来場者の声と交互に流れ、DJ やプレゼンターはサローネの様子や体験をライブで発信します。

【イタリア大使館 貿易促進部 ICE の協力】

ミラノサローネを主催する FDA Eventi 社が、海外企業の経済・商業的發展を支援し、イタリアへの外国投資の誘致を促進する政府機関と積極的に協力し、サローネの各エディションにおいて、海外事業者、特にバイヤー、建築家、インテリアデザイナー、ジャーナリストの関心と参加を促す戦略活動を考案していることが確認されています。今年もまた、ICE はミラノサローネに重要かつ貴重なサポートを提供し、最も多くの有能な海外オペレーターをミラノに招き、ビジネスと地域の利益のためにシステムとして機能する国の能力を証明することができました。

プレスお問い合わせ先: 山本幸 yuki@milanosalone.com

International press info: Marva Griffin-Patrizia Malfatti press@salonemilano.it